

## HEIMTEXTIL 2000 T.D.A出展

### ■開かれたか世界へ向けての扉

2000年1月12日から15日にかけてドイツのフランクフルトで開かれた国際見本市ハイムテキスタイルに、日本テキスタイルデザイン協会が、会員の中から19人の有志を募り、デザイナーブースを開設しました。

ハイムテキスタイルは巨大な見本市で1号館から10号館までの広い展示会場で開かれます。その10号館にデザイナーブースのホールがあり、世界各国からの300近いアトリエのブースが展示されています。毎年日本のデザイナーも10人以上の方が出展しています。そこに今回は、TDAが団体として初めてブースを開設した訳です。

この企画は、TDAも設立して以来5年になり協会活動も少しずつ巾を広げて来ましたが、国内の長引く不況の折からフリーランスのデザイナー、特にアトリエ経営(図案業)の会員の方が相当苦勞されている現状に対して、TDAとして少しでも役立つことが出来ないものかという考えから発案された事でした。そして又、海外の展示見本市にTDAのデザイナーブースを設ける事は、インターネット等による情報革命によってデザインも増々グローバルに発信されている中で、我々としても世界市場に目を向ける良い機会でもありました。

昨年5月に出展を正式に申し込んで以来、夏前までは、そのTDAのブースの展示内容をどうするかという計画案が何人かの有志の方々と話し合われました。しかしブース取得のウェーティングが長く、9月になって返答が得られなかったのでは半ば断念していたところ、10月になって急ぎよ出展が決まりました。そのようなわけで会期まで2ヶ月ほどしかなく準備不足のままスタートしましたが、19名もの有志の方々の参加を頂きました。

大阪と東京で2度の打ち合わせ会を開き、個々のデザイナーの独自性を生かした作品を集合して出展する事になりました。12月25日の搬入日まで1ヶ月ほどの短期間で結局400点近い作品が集まりました。出品票による作品整理と管理、作品の梱包発送、価格表の作成、英文による納品書、請求書の作成、TDAブース開設の案内チラシの作成と各社への発送、会期2日前に現地に行つての展示の準備等に当協会としても海外出展は初めての経験です。手間取る事も多かったです。現地には6人の方が行つてブースの世話役も務めました。皆さんボランティアです。そして無事会期を終えて帰国しました。その結果、デザインの販売に関しては11点のデザインが売れただけに終わり残念な結果でした。しかし、世界に向けてTDAがデザインを発信する窓口ができたわけですし、今回はいろいろ学ぶ点が多かったので、これを足掛かりにこれからは若手のデザイナーが世界に出ていく可能性を探る場にもなり得ると思います。又、今後これを継続する事により日本のテキスタイルデザイナーの国際的地位を確立して行けるようになれば、より一層望ましい結果になります。しかし、この事業には幾つかの問題点を抱えています。1月27日に開かれた理事会で報告された時に諸々の意見が出ました。その一つは、「デザインを販売するというのはビジネスの一つと考えられるので、採算の取れないような事業はやめるべきだ。又、TDA会員にはいろいろな職域の方



が入っているのだから、その会費の中から経費を使って事業を行い、一部の方(売れたデザインの作者)に利得の一部を還元するとなれば尚更のことTDAとして収支が合わなければ会員間での不公平が生じるのではないか」という意見です。(そのことを考慮して今回作品は、「出品料を伴う公募」で集められたのですが、その出品料の3万円が低過ぎたのではないかという指摘もあります)。又、ブースの展示や作品内容に関して批判された理事も居ります。一方で、「今年は初めてのことで多少問題もあろうが、一度で止めてしまえば今回のことが無駄になってしまうので、経験を重ねながら、TDAの文化事業として4~5年の長期間を視野に置いて、続けた方が良い」という意見もあります。

以上のようにいろいろな見解が出ていますので、もしTDAがこのブースを継続するとしても、その方針や運営に関して会員の方々の意見を聞きながらより一層計画的に行うことが大事です。会員の皆様、意見を寄せて下さい。そして、少し横道にそれますが敢えてここで申し上げます。どうか会員皆様の一人でも多くの方が自ら積極的にTDAの活動に参加されることをお願いします。御存知のようにTDAは個々の会員の方々の協力がなければどんな事業もできません。

ともあれ、ハイムの会期を終えた日、展示作品を撤収する時、日本から苦勞して持ち込んだ400点近い大切な作品のほとんどを又日本へ送り返す結果になり、そのために30kgにもなる手製の木箱3個に分けて納め直し、汗だくで荷作りをして、発送受付の締切の時間が迫る中を形振りかまわず肩にかついでフラフラになりながら遠くの建物まで運び終え、空になったブースに戻った時には、どっと出た疲れと虚脱感、そして、一つの責任を終えた安堵感からか、荒い息を吐きながら、「エヘヘ…」とも「ヘラヘラ」とも言うような阿呆のようなまぬけな笑いが世話人達の顔に浮びました。そして誰かが「ホントに泣きたくないよなあ…」と漏らした言葉が今でも忘れられません。いろいろ応援下さった方々に深く感謝致します。

●出展参加者；小川久 大森克夫 古屋興一 石原かおる  
(会員番号順) 尾崎要 桑和成 古閑宗尚 渡邊みち子

豊方康人 日比昭彦 藤井紳一  
真木友子 三田昌広 山岸征史 山本清  
山本宏 佐々木尚 植松暉子 宮嶋直子

●現地同行出品者；小川久 大森克夫 古屋興一 山岸征史  
佐々木尚 宮嶋直子

●世話役；大森克夫 古屋興一 佐々木尚  
宮嶋直子(通訳兼) 通訳；富田みゆき(現地在住)

・敬称略

(レポート 古屋興一)